

## 「ささやかな趣味」 {楽しみ}

林田 明

皆さんも関心をもっておられるかと思います。プロ野球は 多くの人 「\*2019年公式戦入場者数：2、653万人、1試合あたり3.1万人」、の楽しみであり 私の今の楽しみも プロ野球のテレビ実況中継 で それも阪神タイガースの試合「1試合あたり4.3万人」だけをシーズン中 自宅でみています。

阪神とは 別に関わりはないのですが 中学生の頃から 甲子園球場で 高校野球や阪神タイガース「戦前に大阪タイガースとして発足した」の試合をよくみていました。

プロ野球の2リーグ分裂後も 阪神タイガースだけは 地元の球団として残っており「南海阪急、近鉄球団は去り」 これまでからも 年代毎に 凄いスタ・プレイヤー「藤村、土井垣、吉田、村山 掛布、真弓等」が 素晴らしいプレーを見せてくれており 長い間 親しみを感じています。



また かつて 多くの関西人が なんとなく持っていた 東京への対抗心もあって 強い東京ジャイアンツには勝ってほしい という思いもあります。

関西で 阪神タイガース ファンが 増えた理由として 作家の井上章一氏が「大阪的」で つぎのように 指摘されています。

以前から 全国的に「関西でも」ジャイアンツ ファンは多かったけれど 1969年に サンテレビが 阪神タイガース戦の中継 {試合開始から終了まで} に 踏みきったこと、1971年からラジオの大阪朝日放送「おはようパーソナリティ」で 中村鋭一アナウンサーが「放送の公平・中立というたてまえをす

てて 阪神タイガース寄りの姿勢を強くおしだした」ことをあげておられてます。

私たちの周りにも 阪神タイガースファンは多いのではと思います。

テレビ画面では ホームベースプレート上での ボールのコースや変化、打者の対応が よくわかり迫力があります。球審の判定にも つい「あー、えー、よっしゃ、」などと 声のでることがあり 臨場感もあります。「\*野球規則による ストライクゾーンの判定は難しいです。それは審判員の判定によりますが、ベース上でのアウト・セーフの判定が ビデオ映像を見て 覆ることがあると、何かにつけて 人間がする判断は 曖昧なことがあるなあと思います。」



球場で実際にみる楽しさは別にして 指定席気分で 子どもや孫と一緒にみることもあり 話題もはずみます。



とにかく 野球の実況中継は臨場感があり 子どもから老人まで 楽しむことができる 娯楽だと思います。楽しみが少なくなる私の年代では 外出自粛の今 家でくつろげる 何よりの楽しみです。

